

広里地区における湿原再生について

● 広里地区の調査・事業のフロー

【目的】 「釧路湿原自然再生事業基本方針」に基づき、広里地区の自然をパイロット的に再生すること。

【予備作業・検討】

- ・ 植生群落区分により地区内をゾーニング
(→ 7 区分 (ヨモギ・牧草、ヨシ、ハンノキ、ササキ等) にゾーニング。)
- ・ 地区内の再生事業の優先順位を検討
(→ 農地造成跡地の湿原再生、ハンノキ林の湿原再生 とする。)
- ・ 再生サイト (再生区) に対するリファレンスサイト (標準区) の候補地検討
(→ 広里地区内に設定が可能。)

【目標設定】

農地造成跡地 → 1960年代後半 (= 広里地区の農地造成前) の姿に再生することを目標とする。

ハンノキ林 → 調査結果を踏まえ、今後検討する。

【評価項目の検討】

評価項目：植生 (組成・構造)

動物 (タンチョウ・キタサンショウウオ等の注目種、生物多様性)

物理環境 (水位、水質、地下水の流れ)

【調査】

広里地区詳細環境調査

植生詳細解析調査：現存植生と環境条件 (水位、水質、地形等) の対応関係を明らかにし、農地造成跡地やハンノキ林の処理の方針を検討する。

地下水動態解析調査：地区内の地下水収支 (動態) の現況を把握・分析し、再生

サイトでの最適な事業内容を検討する。

野生生物等詳細調査

タンチョウ・キタサンショウウオの生息実態・特性調査

詳細地形図 (標高図) 作成調査、植生略図 (現存・過去) 作成調査

→ 調査結果を踏まえ、【目標設定】及び【評価項目の検討】にフィードバック

【事業内容・手法の検討と仮説設定】

【事業実施】

【モニタリング実施・評価、仮説検証】

【事業見直し】